



### 赤ダンゴと灰色ダンゴ

写真の赤色をしたダンゴと、灰色をしたダンゴ。干潟を歩くと、干潟表面にはよく、写真の様な小さな丸いダンゴが見られる。ダンゴの正体は、大きさが1.5cmほどの小さな丸いカニ（ミナミコメツキガニ）が、表面の砂を口で海水で洗いながら、エサを食べた後ののこりかす（栄養分を吸収した後の砂の塊）である。

なぜ、そのダンゴの色が違うのか？ それは、ダンゴが作られた場所が違うからである。

写真（左）は、沖縄本島北部の川が流れ込む干潟であり、写真（右）は沖縄本島中部の沖縄市泡瀬干潟である。川の上流部から赤土が流れ込んで、干潟表面は赤くなっている。そういう場所では、ダンゴが赤くなるのである。泡瀬干潟は、サンゴ由来の砂礫質が広がっているため、干潟表面は灰色～薄茶色をしている。良く見ようと近づくと、ダンゴのみとなった。